

令和4年度第2回地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 議事録

日 時	令和4年7月25日(月) 13:30~14:00	
場 所	オンライン会議(事務局:福岡市役所 第3特別会議室)	
出席者	委員	福岡市医師会 副会長 松浦 弘 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 院長 藤 也 寸志 福岡県看護協会 会長 大和 日美子 公認会計士 行正 晴實
	事務局	福岡市保健医療局長、同理事、同健康医療部長、同医療事業課長
	病院機構	理事長、副理事長、運営本部長、法人運営課長、 福岡市立こども病院事務部長、同看護部長、同総務課長、同経営企画課長、同医事課長 福岡市民病院事務部長、同看護部長、同総務課長、同経営企画課長、同医事課長
次 第	1 開会 2 議事 (1) 令和3年度業務実績評価について 3 その他	
配付資料	資料1 地方独立行政法人福岡市立病院機構 令和3年度の業務実績に関する評価結果報告(案) 参考資料1 地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針 参考資料2 地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領 参考資料3 地方独立行政法人福岡市立病院機構 令和3年度の業務実績に関する評価結果(案)まとめ	

(1) 令和3年度業務実績について

○事務局

【資料1及び参考資料3について説明】

○委員長

令和3年度業務実績に対する市の評価案について、委員の皆様からご質問やご意見を伺いたいと思います。

○委員

まず、市が病院機構の自己評価から評価を上げている項目について、意見を述べさせていただきます。

44ページからの「福岡市民病院：災害・感染症等への適切な対応」については、一部数値目標を満たしていない項目がありますが、その他のコロナ対応などの取組とあわせ総合的に考慮し、市の評価案を妥当と判断します。

116ページからの「こども病院：医療機能の充実」については、こども病院の果たした研究面での業績から、妥当と考えます。

120ページからの「福岡市民病院：経営改善の推進」についても、医業収支比率における目標の達成率では令和2年度の評価時と比べて10ポイント以上改善されていること等を踏まえ、妥当と考えます。

以上のことから、市の評価案は、全体として問題ないと考えます。

最後になりますが、業務実績評価を行うに当たっては、目標達成状況は重要な指標であることから、今後も適切な目標設定とその達成に向けた取組を期待します。

○委員

結論としましては、市の評価案に賛成です。

いくつか意見のみ申し上げますと、大項目第1の「1医療サービス(3)災害・感染症等への適切な対応」に関する福岡市民病院の評価が、病院の自己評価4から市の評価案では5になりました。先ほどのお話にもありましたが、今まさに、災害・感染症の適切な対応というのは非常に重要な項目であり、それに対して福岡市民病院の活動というのは十分だと思しますので、自己評価は4でしたが市が評価を5としたことは妥当だと思います。

また、コロナ対応の記録集は、市民向けのものではありませんが、情報発信として非常に重要な活動だと思いますので、自己評価通り4のままで構わないと思います。

最後の福岡市民病院の経営改善に関する項目、自己評価3が市の評価案では4になっています。その結論に異論はありませんが、市のコメントに書かれている経常収支の黒字を達成ということについては、コロナ対策に伴う多額の補助金が交付された上での黒字だということはどう捉えるか、今回だけでなく同様のことが続いた場合に、医業収支等も含め業務実績をどう判断していくのか、今後のことも考えながら評価する必要があると感じました。

具体的な提案ではありませんが、経常収支が黒字になればよいわけではないのだろうとは

思います。ただ、福岡市民病院の職員の皆様のご苦勞を考えると、今回の市の評価が4 だというのは妥当だと思います。

○事務局

経常収支の黒字の達成につきましては、まさに今のご発言の通りで、医業収支の部分では赤字が生じておりますが、コロナ関連の補助金を含めて経常収支では黒字となっております。福岡市民病院におけるコロナへの対応も総合的に判断した上で4 という評価にいたしました。

コロナ関連の補助金がなくなった時の、病院の経営状況をよくしていかなければならないことは重要だと考えておりますので、その点も踏まえて、来年度以降の評価について検討していきたいと考えております。

○委員

病院の自己評価と異なる評価になった箇所については異論ございません。

今後のこととして、少し意見を述べさせていただきたいと思います。

大項目第1の「2 患者サービス（2）情報発信」、それから大項目第2の「2 事務部門の強化」という項目の、ウエイト（重みづけ）はいずれも1 になっていますが、これから強化すべきDX（デジタルトランスフォーメーション）のグランドデザイン化、それからマイナンバーカードの活用を含む各種データの活用ということを考えると、もう少し評価すべき項目として、ウエイトの設定についても今後ご検討いただきたいと思います。

同じく大項目第2の「3 働きがいのある職場環境づくり」についても、働き方改革関連法案に沿って2024 年までに計画的に進める必要がありますので、ウエイトを1 から2 に変更を検討してもよいのではないのでしょうか。福岡市民病院の院長からも、タスクシフトやタスクシェアに関しては、単に仕事を分けるという考え方ではなく、質の担保が非常に重要であるという、教育の視点からのお話もいただきましたので、今後重要な項目となるのではと考えております。来年度以降、ご検討いただきたいと思います。

また、働きがいのある職場環境については、仕事に対するモチベーションを強化するという意味合いかと思いますが、ワーク・ライフ・バランスという観点では、いかに働き続けられる環境を作るかということが、職員の確保、定着、離職防止につながっていくのではないかと思います。コロナ禍のさなか、県内の看護職員についても、コロナ対応等の疲れが出てきており、離職を検討しているという話も耳にします。ワークモチベーションだけでは働き続けられないという状況が、アフターコロナに起こるのではないかと危惧しており、いかに職員が働きやすい環境を作るかということも非常に重要だと考えておりますので、その点についても今後ご検討いただきたいと思います。

○委員

これまで何度か評価委員会に携わってきましたが、大項目第2、業務運営の改善及び効率化に関する評価は、3 以外になることがなかったように思います。DXを上手く取り入れ、徹底することによって、業務の効率化に地道に取り組んでいかなければ、今後も評価が変わることはないのではないのでしょうか。

D X、デジタルトランスフォーメーションの推進が最終的な目的となりますが、その過程には、今までアナログでやってきたことをデジタル化していくデジタイゼーションという段階と、それをもう一歩進めて、R P A（ロボティックプロセスオートメーション）などが代表的ですが、業務のプロセスについて改善するデジタイゼーションという段階があつて、最終的に、病院が求められる患者サービスや職員にも働き甲斐のある職場づくりを含んだデジタルトランスフォーメーションになっていくものだと思います。ですから、業務の改善や効率化という部分だけではなく、一番根本にある医療サービスや患者サービスの向上につながるという絵を描いた上で、D Xに着実に取り組んでいただきたいと思います。

○委員長

他にご意見ございませんでしょうか。

ないようですので、それでは市の評価結果につきましては、報告書案の通りでよろしいでしょうか。また、3ページの評価にあたっての意見、指摘等につきましては、私の方で責任を持って確認させていただきますので、委員長一任とさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

異議なし

○委員長

ありがとうございます。それでは、委員長に一任とさせていただき、議事（1）についての審議を終わらせていただきます。

なお、委員の皆様から出されたご意見は、今後の市の評価に適切に反映していただくようお願いいたします。

○事務局

【第3回の日程等について説明】

これをもちまして、本日の委員会は、終了させていただきます。